

あけぼのすぎ

都立府中療育センター新聞 第505号 発行日 令和元年12月1日

バスハイクに行ってきました

1-A病棟 穴沢 道晴

10月16日（水曜日）に、半日バスハイクで府中駅前の「ル・シーニュ」に行ってきました。天候に恵まれていれば、昭和記念公園に行って今が盛んなコスモスを楽しむ予定でしたが、肌寒い北風が吹く曇天でしたので、行先を変更して暖かい室内での買物と午後のティータイムを楽しむことになりました。

当日は3名の利用者さんが参加され、いつものような賑やかなバスハイクとなりました。

ル・シーニュでの買物は、ふんわりと暖かそうなタオル製品を、利用者の皆さんと一緒に選びながら購入しました。また、盛り上がっていたラグビーワールドカップや、ハロウィンなどの飾りつけが華やかな店内でのウィンドウショッピングも楽しみました。

買物の後は、お楽しみのカフェでのティータイムです。肌寒い日でしたが、5階にあるカフェの暖かい店内で、アイスクリームやカフェラテをゆっくりと味わいました。帰りのバスの中でも、おしゃべりや景色を楽しみながら、楽しい一日を過ごしました。

天候が悪く、残念ながら色とりどりのコスモスを楽しむことはできませんでしたが、静かな雰囲気の中で、ゆっくりと美味しい飲み物を楽しむことができたことは滅多にできない経験でした。

もうすぐ寒い季節になりますが、楽しいクリスマスやお正月も、もうすぐです。風邪に気をつけて元気に過ごしましょう。



東京都永年勤続感謝ほか伝達式

事務室広報担当 齋藤 眞殊

11月5日（火曜日）、東京都での長年にわたる勤務に対して「東京都永年勤続感謝状」が8名の職員に授与されました。また、公益社団法人 日本重症心身障害福祉協会から、加盟施設での長年にわたる勤務に対して「永年勤続表彰状」が5名の職員に授与されました。

受賞された皆様のますますの御活躍を祈念しております。



地域療育講習会を開催しました

医療社会事業担当 武田 祥和

10月31日（木曜日）、多摩総合医療センター講堂「フォレスト」にて、第27回地域療育講習会が開催されました。

この講習会は、当センターの地域療育等支援事業の一環として、日々の療育経験から得られた知見を地域で療育に携わっている方々の資質向上に役立てていただくために、平成18年から定期的で開催しています。

今回のテーマは「重症心身障害児・者の摂食嚥下と高齢化～機能低下とどう向き合うか～」とし、当センターの4名のスタッフが演台に立ちました。

渥美小児科医師からは「障害児者の摂食嚥下 高齢化の問題とその対応」として、加齢に伴い経口摂取が困難となるので、その対応には食形態の調整や姿勢の工夫、その他のリハビリ、喉頭気管分離等の治療手段を考慮した総合的な検討が必要であり、本人ができる限り幸せになることを最優先に考えることが重要であるとお話しされました。

谷野看護師からは「病棟での気づきとその対応」として、生活病棟スタッフからの調査に基づく発表でした。利用者さんの食事の様子を日々観察することで、気づきの感度を上げ、専門職と共有しながらどのように対応していくかチームで話し合いをすることの大切さが伝わってきました。

関戸理学療法士からは、食事における「姿勢調整の工夫」として、利用者さんが快適と感じられる姿勢や体の機能が発揮できる角度だけでなく、車椅子の特性と身体機能を考慮した使い分けとともに、よりよい食事のためには運動機能の維持も重要とアドバイスがありました。

山本言語聴覚士からは「栄養摂取のヒント」として、誤嚥しにくい食事のためには、ある程度の固さが必要で、まとまりがあって均質なものが喉でばらけにくいこと、そして何より美味しいことが重要であることが説明されました。

今年も福祉施設や学校、保健所などの看護師、保健師、生活支援員、学校教諭等、様々な分野の方に御参加いただき、前回は大幅に上回る93名の参加がありました。終了後のアンケートでは、「画像による説明がわかりやすかった」「各専門職が様々な視点で評価したり、ケアの工夫について検討をしたい」などの好評価をいただいた様子でした。

今後も講習会の開催を通じて、障害児(者)を支える皆様のお役にたてるよう、知見を御紹介してまいります。



2-B 秋の音楽会

2-B 木村 由紀子

2-B病棟では10月24日（木）、フルートアンサンブルを演奏されるコスモスベアーズの皆さんによる「秋の音楽会」を開催しました。

素敵なドレスやタキシードをまとったコスモスベアーズの皆さんが登場されると、利用者の皆さんから笑顔と歓声があがり、これから何が始まるの？と楽しみにしている様子が見られました。

演奏が始まると、真剣にじっと聞いている利用者さんのほか、笑顔で聞きながらリズムをとったり、胸をたたいて喜びを表現したりする利用者さんがいました。

「ドレミの歌」では利用者さんと職員と一緒にハンドベルを持って参加しました。それぞれ笑顔で上手に演奏できていたと思います。また「童謡メドレー」や「瀬戸の花嫁」などの馴染みのある曲では、鈴やマラカスなどの楽器を鳴らして大いに盛り上がりました。コスモスベアーズの皆さんには、素敵な演奏だけでなく、演奏曲に合わせたフリップや冊子を用意していただき、わかりやすいお話もしていただきました。

穏やかな秋のひと時をやさしい音色で楽しく過ごすことができました。参加された皆様の心に良い思い出となりますように・・・ありがとうございました。



お楽しみ会を開催しました

4-1病棟 山田 志津子

10月30日（水曜日）に、10月に誕生日を迎えられた利用者さんのお祝いとゲームを賑やかに開催しました。

離床が難しい利用者さんでしたので、皆がベッドの周りに集まり、別の利用者さんにキーボードで「ハッピーバースデー」を演奏していただきお祝いをしました。

続いて、参加した利用者さんが6つのチームに分かれて『コアラのレース』というすごろくのゲームを行いました！すごろくは、普段は早くコマを進めたチームが勝ちですが、コアラはゆっくりと動く動物ですので「ゆっくり進んで、最後にゴールしたチームが勝ち！」としたルールで始めました。

利用者の皆さんはサイコロを手や足を使って上手に転がしていました。どんどん早く進んでいくチームや、ゆっくりと進むチーム。サイコロが転がるたびに歓声が上がリ、楽しいひと時となりました。御家族の方や他病棟の利用者さんの参加もあり、とても大人数で賑やかに出来ました。

普段とは異なるゲームのルールに戸惑う場面もありましたが、また楽しいルールのゲームを考えて行事を開催していきます。



新人看護師臨床研修を修了して

今年度新規採用され、4-2病棟に配属となった看護師の赤塚さんが、6か月間の臨床研修期間を修了しました。研修を終えた赤塚さんと、プリセプター(指導役)の松崎さんに取材を行いました！

新人看護師 看護科 赤塚しおり(4-2病棟)

学生時代に障害を持つ方と関わった経験から重症児者看護に興味を持ち、インターンシップを通して府中療育センターへの就職を決めました。

重症心身障害児者の看護は学生時代に学ぶ経験が少なく、入職して間もない頃は分からないことばかりで、特にコミュニケーションをとることに苦戦しました。しかし、半年間の臨床研修で重症児者に対する知識を深めることができました。

病棟では日々先輩方から指導を受け、関わりを重ねるにつれて利用者さんの個別性に気づくことができ、現在は利用者さんそれぞれに合わせた関わりができるようになってきました。まだまだ慣れないことばかりですが、言葉で苦痛を訴えることが難しい利用者さんが多い中で、小さな異変に気づくことができるように日々意識して関わっています。

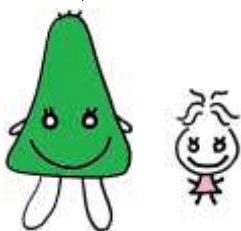
プリセプター 看護科 松崎順子(4-2病棟)

今年度、センターの新人配属は1名でした。同期がいない状況を考慮し、コミュニケーションを図り人間関係を構築する事が重要課題と考えました。そこで私は、赤塚さんとケアを実施しながら会話する機会を増やしました。

また、赤塚さんと私とは年齢差があるため、私の目線以外に、4~7年目の若手スタッフが基礎から培った重症心身障害看護の経験を伝えてもらうようにしました。その結果、同世代同士での交流も深まったと思います。

新しい業務を覚えることや人間関係の構築など、ストレスのかかる日々だったと想像しますが、利用者さんに対する対応は優しく丁寧に出来ていました。赤塚さんが臨床研修を修了することができたのは、日々真面目に取り組んだ結果だと思います。今後も目標達成に向けて、共に努力していきたいです。

赤塚さん、これからも頑張ってください！



(左から松崎プリセプター、赤塚さん、斎藤看護師長)



(赤塚さんと病棟スタッフの皆さん)

〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>